

阿武隈川

緊急治水対策プロジェクト

本川・支川の抜本的な治水対策と
流域対策が一体となった防災・減災対策



福島河川国道事務所

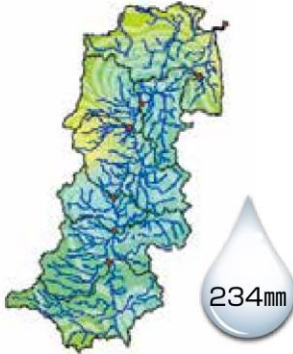
Fukushima Office of River and National Highway

●降雨概要

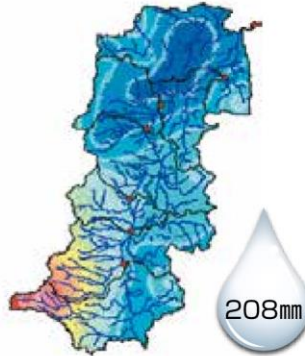
令和元年東日本台風では、阿武隈川流域全域で、**戦後最大の記録的な降雨**となりました。

2日間で年間降水量の約25%の降雨

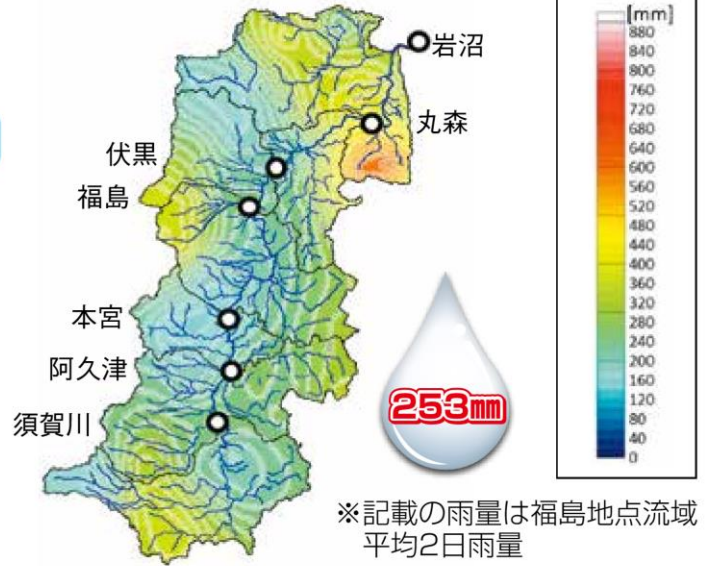
昭和61年8月洪水



平成10年8月洪水



令和元年東日本台風



●水位概要

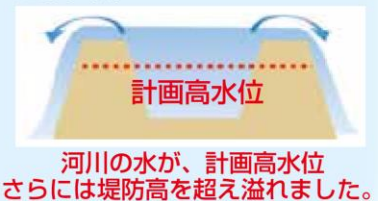
阿武隈川および支川の荒川について、福島県内の**基準観測所*すべてで既往最高水位**を観測しました。

※洪水時において、水位の情報を提供すると予め定められた水位観測所

●計画高水位とは？

川の中の水を安全に流すことができる最高水位です。この水位を上回る洪水では、堤防が危険な状態になることを意味します。

越水箇所では…



水位観測所		伏黒		福島		二本松		本宮		阿久津		須賀川		八木田	
計画高水位 [m]		7.27		6.56		13.18		9.29		8.68		7.99		3.46	
既往水位 [m]	1位	6.3		6.4		12.8		9.7		10.0		9.6		2.5	
	2位	S23	6.0	S61	5.9	H23	11.6	S16	9.6	H23	9.2	S16	9.0	H1	2.5
	3位	H14	5.3	H10	5.5	H14	11.5	H23	8.6	S61	8.8	H23	8.6	S57	2.0

計画高水位より… 44cm↑ 133cm↑ 162cm↑

●被害概要

浸水面積 (ha)	浸水戸数 (戸)	
	床上	床下
約3,200	約9,300	約2,200

※国直轄管理区間の市町村全体での数字であり、今後の調査で変更となる可能性があります。



郡山市水門町



郡山市若葉町

●阿武隈川緊急治水対策プロジェクトの概要

東日本台風の被害を踏まえ、阿武隈川緊急治水対策プロジェクトを「阿武隈川上流大規模氾濫時の減災対策協議会」にて策定。関係機関が連携し、**ハード整備・ソフト対策が一体**となった、流域全体における総合的な防災・減災対策を行うことにより**浸水被害の軽減、逃げ遅れゼロ、社会経済被害の最小化**を目指します。

① ハード対策

河川における治水対策の推進

全体事業費：約1,840億円

※プロジェクトについては今後、変更となる場合があります

相互に連携

ソフト対策

②

減災型都市計画の展開

③

地区単位・町内会単位での防災対策の構築

④

バックウォーターも考慮した危機管理対策の推進

⑤

市町村の実情に応じた減災の取り組み

1

【ハード対策】 河川における治水対策の推進

→本川の水位を低下させる対策・支川における堤防強化等の治水対策を推進

2

【ソフト対策】 減災型都市計画の展開

→沿川地域における住まい方・まちづくりの工夫の推進
例：浸水リスクを考慮した「立地適正化計画の展開」など

3

【ソフト対策】 地区・町内会単位での 防災対策の構築

→的確な避難行動に資するきめ細かな情報提供等の推進
例：支川や内水も考慮した「タイムライン」の整備・改良など

4

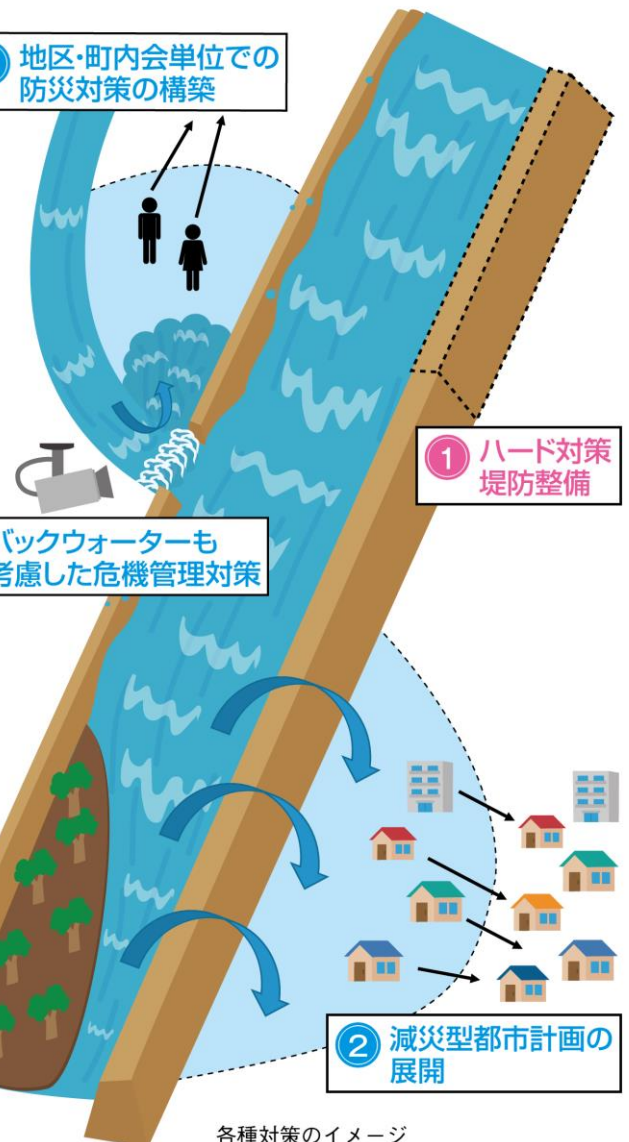
【ソフト対策】 バックウォーターも考慮した 危機管理対策の推進

→本川合流部周辺における支川の減災対策の推進
例：本川の背水影響が及ぶ区間への「カメラ」及び「危機管理型水位計」の設置など

5

【ソフト対策】 市町村の実情に応じた減災の 取り組み

→地域の特性等を踏まえた各種減災対策の推進



① ハード対策
河道掘削

② 減災型都市計画の展開

各種対策のイメージ

阿武隈川緊急治水対策プロジェクトの概要

事業費

全体事業費 約1,840億円

国（福島県内）	約1,129億円	国（宮城県内）	約314億円
福島県	約334億円	宮城県	約62億円
河道掘削	約220万㎡	築堤	約400m
橋梁架替	2橋	遊水地群整備	
事業期間	令和元年度～令和10年度		

事業例

●堤防復旧工事（浜尾地区）



●河道掘削（鎌田地区）



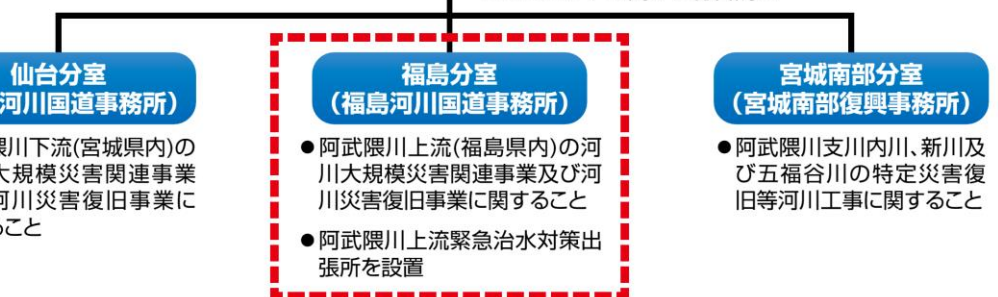
体制

東北地方整備局内の関係部局における連携を一層強化し、事業を強力かつ円滑に推進するため、「阿武隈川緊急治水対策推進室」を設置しました。

本室と分室が連携し、定期的に情報共有等を行いながら、事業調整、進捗管理等を円滑に進めていきます。

阿武隈川緊急治水対策推進室 本室 (東北地方整備局河川部)

●阿武隈川緊急治水対策プロジェクトに関する総合調整



仙台分室 (仙台河川国道事務所)

- 阿武隈川下流(宮城県内)の河川大規模災害関連事業及び河川災害復旧事業に関すること

福島分室 (福島河川国道事務所)

- 阿武隈川上流(福島県内)の河川大規模災害関連事業及び河川災害復旧事業に関すること
- 阿武隈川上流緊急治水対策出張所を設置

宮城南部分室 (宮城南部分室復興事務所)

- 阿武隈川支川内川、新川及び五福谷川の特定災害復旧等河川工事にに関すること

減災対策協議会・流域治水協議会

減災対策協議会は、国・県・市町村等で構築され、沿川市町村長等により阿武隈川の今後の防災・減災対策の方向性についての議論を行っています。また、流域治水協議会では、氾濫域も含めて一つの流域として捉え、その河川流域全体のあらゆる関係者が協働し、流域全体で水害を軽減させる治水対策として、流域治水プロジェクトを策定予定。

減災対策協議会委員

- 福島市長
- 郡山市長
- 須賀川市長
- 二本松市長
- 伊達市長
- 本宮市長
- 福島県土木部長
- 福島県危機管理部長
- 福島地方気象台長
- 三春ダム管理所長
- 摺上川ダム管理所長
- 福島河川国道事務所長
- 桑折町長
- 国見町長
- 大玉村長
- 鏡石町長
- 矢吹町長
- 玉川村長



第6回協議会（県北方部）の様子



第7回協議会（テレビ会議）の様子

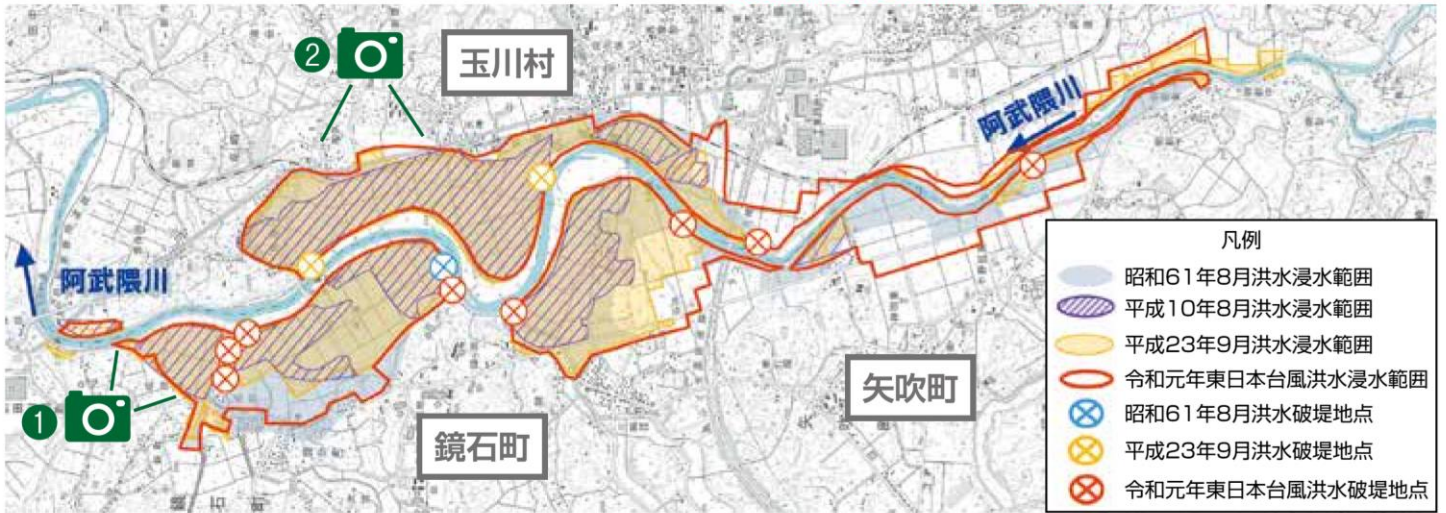
※2020年4月時点

●上流箇所における治水対策

過去の浸水状況

洪水年月	浸水面積	浸水戸数
昭和61年8月	342ha	182戸
平成10年8月	205ha	22戸
平成23年9月	300ha	65戸
令和元年10月	487ha	289戸※

※鏡石町、矢吹町、玉川村から聞き取り



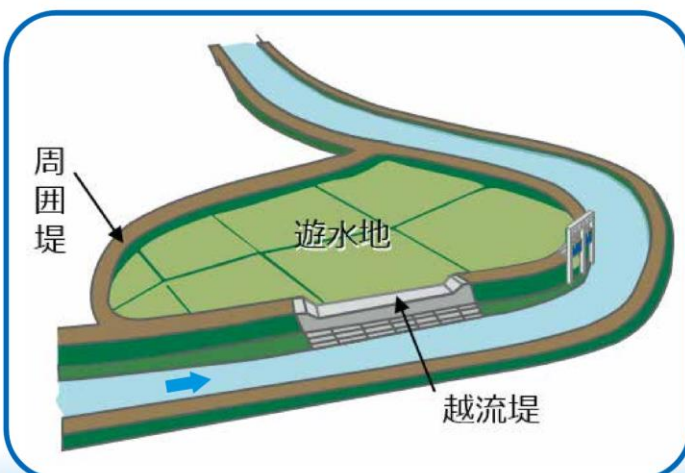
①平成23年9月洪水



②令和元年東日本台風

遊水地の検討

氾濫しやすい地形特性を踏まえ、計画的に治水効果を発揮させ、東日本台風洪水に対応できる治水対策として遊水地整備を検討



遊水地イメージ図



既存の遊水地例 (浜尾遊水地、須賀川市浜尾)

●東日本台風による被災直後の阿武隈川の様子

位置図



1 伊達市五十沢付近



2 国見町徳江大橋付近



4 福島市荒川合流点付近



6 郡山市富久山大橋付近



9 須賀川市浜尾地区



3 福島市摺上川合流点付近



5 本宮市安達太良川合流点付近



7 郡山市行合橋付近



8 須賀川市釈迦堂川合流点付近



10 矢吹町・玉川村付近



進捗状況等については、
こちらをご覧ください

プロジェクトの
詳細については、
こちらをご覧ください

